

2025年4月24日

報道関係各位

GMO インターネットグループ

GMO インターネットグループ、 スキルをバッジ化し、社内ポータルで公開 「AI 人財」の可視化を実現

“すべての人にインターネット”をコーポレートキャッチに、インターネットインフラ、インターネットセキュリティ、インターネット広告、インターネット金融、暗号資産事業を展開する GMO インターネットグループ（グループ代表：熊谷 正寿）は、「AI で未来を創る No.1 企業グループへ」を掲げ、グループをあげた生成 AI の活用・業務効率化の取り組みを進めています。

今回、パートナーの AI の業務活用率が 90%を超えた次のステージとして、業務効率化の先にある本質的な価値創造へと進化させるべく、AI や RPA のリスキリング講座「虎の穴」^(※1) で習得した AI スキルを、グループ横断で全パートナー（従業員）が閲覧できる社内ポータルの「パートナー一覧」にバッジとして表示し可視化する仕組みを導入します。

管理職には同バッジの取得を義務付け、これにより管理職の AI 理解が深まり AI 関連提案の承認プロセスがスムーズになるとともに、AI 人財が正しい把握、評価、部門を越えたコミュニケーションの活性化、今までにないサービスの開発スピードの加速を実現します。

(※1)「虎の穴」は、主に非エンジニア向けの AI・RPA（自動化）リスキリング講座です。

AIスキルバッジ化で
「AI人財」の可視化
社内ポータルで共有

GMO
INTERNET GROUP

【AI・RPA スキルバッジで AI スキルや業務自動化スキルを可視化】

AI の活用率が 90% を超え、GMO インターネットグループでは AI 導入による「仕事の質の向上」を目指す中、「虎の穴」で習得した AI スキルを社内ポータル「パートナー一覧」上にバッジとして表示し、実務的な AI スキルの可視化を実現します。本取り組みには以下の特徴があります。



1.AI スキルのバッジ表示による可視化

「誰が AI 人材なのかひと目でわかる」

- 「虎の穴」で習得した AI・RPA スキルを具体的なバッジとして「パートナー一覧」に表示
- 「セキュリティ」「RPA 開発」「AI ツール活用」など、実務的なスキルを細分化し誰がどんなスキルを持っているかが分かる
- 「Dify」「Power Automate」等、具体的なツールやプラットフォームも「虎の穴」のレベルに合わせてどの程度の難易度まで習得ができていたかが分かる

2.AI スキル人材が増えることによるコミュニケーション促進

「AI 関連の開発を非エンジニアも理解」

- 部署や階層を超えて、必要な AI スキルを持つ人材を特定可能
- プロジェクト単位での適材適所の人財アサインを実現
- AI 人材が関わることで橋渡し役となり、エンジニアとのコミュニケーションも円滑に

3.管理職の AI 理解促進とコミュニケーション活性化

「AI 人材を正しく評価できる管理職」

- 管理職がチーム内の AI スキル保有者を把握することで、AI 活用提案の理解と承認がスムーズに
- AI 人材を評価する側が、正しく AI を理解できている環境の構築
- 管理職パートナーが修了必須の講座も設ける

4.「虎の穴」のオンデマンド化との連携

「自分のペースで AI 人材になれる」

- AI、RPA のリスキリング講座「虎の穴」と連携し、習得スキルを自動的にバッジ化
- 2025 年 4 月～9 月の 6 か月で 1,000 人のスキル可視化を目標^(※2)
- 講座は社内の専門家・技術者が講師となり、完全内製

(※2) 4 月 14 日から始めたバッジ付与において、4 月 17 日時点で、全パートナーのうち 483 人が AI 人材としてバッジ付与をされており、2025 年 9 月までには 1,000 人のバッジ付与を目標としています。

【グループ内 AI 推進プロジェクト「AI しあおうぜ！」リーダー 李 奨培（り じゃんべ）コメント】

AI の業務活用率が 90%以上だとして、その中身はどうなのか、業務活用率が高まった結果、何を新しく創出したのか。本質的な AI 活用の結果として、仕事の質は高まったのか、それがとても重要です。

「パートナー一覧」に AI スキルがバッジで表示されることにより、グループ内の誰がどのような AI スキルを持っているかが一目で分かるようになります。パートナー間での「共通言語」や「共通知識」の確立はコミュニケーションを潤滑にし、相乗効果で AI 関連サービス開発の質の向上、開発スピードの向上の両方に効果があります。

これにより、単なる効率化を超えた新たな価値創造へのシフトが可能になります。2025 年は、AI 活用により、組織の創造性そのものを変革・向上することに努めます。



【GMO インターネットグループについて】

GMO インターネットグループは、ドメインからセキュリティ、決済までビジネスの基盤となるサービスをご提供するインターネットインフラ事業を軸に、インターネットセキュリティ、インターネット広告・メディア事業、インターネット金融事業、暗号資産事業を展開する総合インターネットグループです。

また、「AI で未来を創る No. 1 企業グループへ」を掲げ、グループ全パートナーを挙げて生成 AI を活用することで、① 時間とコストの節約、② 既存サービスの質向上、③ AI 産業への新サービス提供を進めています。^(※3) なお、生成 AI を活用し、2024 年は年間で推定約 150 万時間の業務削減を実現し、

2025 年 3 月には AI の業務活用率が 90%を突破しました。

お客様に喜ばれるサービスを迅速かつ低価格で提供するために、サービスは機器の選定から設置、構築、開発、運用までを内製化することを基本方針としています。そのため、グループ 110 社以上に在籍する約 7,500 名のパートナーのうち、IT のモノづくりを担う開発者（エンジニア・クリエイター）が 50%を超えています。（2024 年 12 月末時点）

(※3) 参考 URL 「AI で未来を創る No.1 企業グループ」実現への取り組み <https://www.gmo.jp/ai-history/>

GMO インターネットグループで実施する AI 活用促進の例については別紙に記載しております。

以上

【報道関係お問い合わせ先】

●GMO インターネットグループ株式会社

グループ広報部 PR チーム 倉田

TEL : 03-5456-2695

お問い合わせフォーム : <https://www.gmo.jp/contact/press-inquiries/>

【GMO インターネットグループ株式会社】(URL : <https://www.gmo.jp/>)

会社名	GMO インターネットグループ株式会社 (東証プライム市場 証券コード : 9449)
所在地	東京都渋谷区桜丘町 26 番 1 号 セルリアンタワー
代表者	代表取締役グループ代表 熊谷 正寿
事業内容	持株会社 (グループ経営機能) ■インターネットインフラ事業 ■インターネットセキュリティ事業 ■インターネットセキュリティ事業 ■インターネット広告・メディア事業

	<ul style="list-style-type: none"> ■ インターネット金融事業 ■ 暗号資産事業
資本金	50億円

Copyright (C) 2025 GMO Internet Group, Inc. All Rights Reserved.

【別紙：GMO インターネットグループで実施する AI 活用促進の例】

■ ① 時間とコストの節約

1. 2023年4月より賞金総額1,000万円の社内公募コンテスト「AI（愛）しあおうぜ！ChatGPT 業務活用コンテスト」を実施。AIに関する取り組みや新サービスへつながる作品が集まり、多くがサービス提供・実装しました。
2. AIに関する最新動向や最新ツールの理解を深める、専門家による「GMO AI セミナー」を定期開催しています。
3. AIに関するグループ内のポータルサイト「GMO Genius」を立ち上げ、プロンプトやGPTsの共有、その他情報共有等を行い、グループ内の「AI ナレッジ」の共有を図っています。
4. 非エンジニアを対象としたリスティング施策として、社内の有識者が講師となり、3か月間の短期 AI 人材育成プログラム「虎の穴」を実施しています。
5. 全パートナー受験必須の AI テスト「GMO AI パスポート」を実施しています。また、中途採用における選考で AI に関する課題を実施しています。
6. Slack 上で使える「ChatGPT」等のアプリを提供し、情報が学習されないクローズドな環境で、有料ツールを利用できる環境を提供しています。
7. 2024年12月に、「AI 熊谷正寿」実現へのステップとして社内向け独自 AI ツールを提供開始しました。本ツールは「GMO イズム」を学習した“バーチャル知的ナビゲーター”です。
(<https://www.gmo.jp/news/article/9305/>)

■ ② 既存サービスの質向上

AI を活用し既存サービスへの機能追加による質の向上を測っています。生成 AI による文章や画像の生成等により、ドメイン、ホスティング、EC、広告、メディア、セキュリティ等幅広い領域でお客様にこれまで以上に利便性の高いサービスをご提供しています。詳しくはこちら (<https://www.gmo.jp/ai-history/>)

■ ③ AI 産業への新サービス提供

AI 産業を盛り上げるべく AI スタートアップの支援を進めています。

1. 2023年5月に、ハンズオン型 CVC「GMO Web3 株式会社」を、「GMO AI&Web3 株式会社」へと社名変更し AI スタートアップ支援を拡大しています。すでに、有望な AI スタートアップへの支援を実施しています。
2. NVIDIA 社の GPU「NVIDIA H100 Tensor コア GPU」「NVIDIA L4 Tensor コア GPU」を搭載した AI 開発者向けの GPU ホスティングサービスを開始しました。(<https://www.gmo.jp/news/article/8677/>)
(https://ir.gmo.jp/pdf/irlibrary/gmo_disclose_info20240213_06.pdf)
3. AI 専門家とともに「GMO 教えて AI 株式会社」を設立し、生成 AI プロンプトポータルサイト「教えて AI」を開始しました。(<https://oshiete.ai/>)
4. 2024年6月に、GMO AI&ロボティクス商事株式会社（通称 GMO AIR）を設立し、AI とロボット・ドローンの導入・活用支援を軸とした新たな事業を開始しました。(<https://www.gmo.jp/news/article/9010/>)
5. 2024年11月に、「NVIDIA H200 Tensor コア GPU」と「NVIDIA Spectrum-X」イーサネット ネットワーキング プラットフォームを採用した「GMO GPU クラウド」の提供を開始しました。
(<https://www.gmo.jp/news/article/9271/>)